鹿児島国道、新庁舎落成式

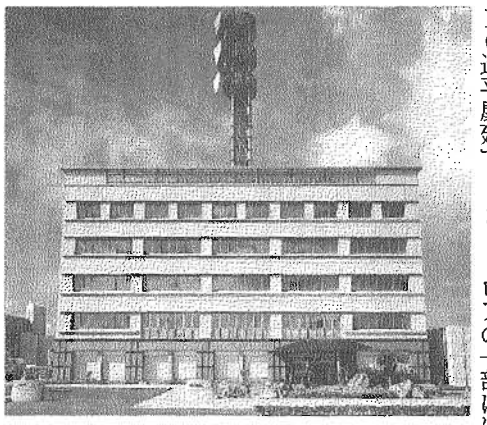
新拠点で道路行政にまい進

「21世紀に開かれた明るい庁舎」を基本理念に、鹿児島市浜町に装いも新たに完成した国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所の新庁舎落成式が7日、現地で関係者約70人が出席し開き、道路行政の情報発信の提供や防災機能の強化が図られた新庁舎の完成を祝った。

落成式に先立ち、渡邊茂樹同局長や奥村康博所長らがオオシマサクラを記念植樹。引き続き場所を移して行われた落成式では、奥村所長が「今後は、この新庁舎を拠点として豊かな生活と活力ある経済を支えるべく、道路行政にまい進して参りたい」と式辞を述べたほか、渡邊局長も「4月からは鹿児島国道事務所と名称が変更する。今後も地域住民に親しまれる道路行政を行っていきたい」と挨拶し、県出国会議員も祝辞を寄せた。

今回の建て替えは、昭和33年に下伊敷に建設された旧庁舎の老朽化が著しく、地震に対する安全性の確保などから、錦江湾を望む環境良好な現在地に平成12年より工事着手し、昨年12月に完成した。

新庁舎は庁舎棟SRC造5階建延べ3807・25平方㍍と車庫棟RC造平屋建て237・76平方㍍、総事業費約18億円。誰でも使いやすい庁舎を目指してハートビル法の基準によりバリアフリー化され、地球環境問題への対応として屋上緑化やソーラーパネル・風力を利用した照明、親水性外壁タイル及び氷蓄熱空調整備システムなどを設置。また、1階フロアの一部には道路行政及び事業に関しての情報発信を行う「みち案内プラザ」を開設し、災害時に避難施設としても機能する配慮がなされているほか、4階フロアは「防災センター」と位置付け、災害対策及び管理部門を集約し、防災無線・光ネットワーク整備により南九州の防災拠点としての機能が充実している。



新しく完成した庁舎（上）と挨拶する奥村所長＝鹿児島市の現地で

鹿児島市管工事協組パト

年度末の災害防止を

鹿児島市管工事協同組合（今井俊雄理事長）は年末の繁忙期を迎え仕事がふくそうする現場の労働災害防止と更なる安全意識の高揚を訴えた。

今回は、整備69工区配水管布設工事（サンケイ建設㈱）、改良60工区配水管布設工事（太陽設備㈲）、整備68工区配水管布設工事（理水工業㈱）、整備82工区配水管布設工事（大三工業㈲）、中央3号配水管布設工事・その3（中央工業㈱）、同・その4（平和水道工務所）の6現場をパトロール個所に決め、診断を実施。

同日は午後1時、鹿児島管工事会館に鹿児島市水道局の岡村水道管路課長をはじめ、組合の尾上理事や工務委員（古屋、梶原、岡村、平井、米山、増田、古薗、泊）、組合事務局（鮫島、金里、村場）らが集合。初めに鮫島事務局長が「組合では岡村課長らが、「組合ではこれまで重大災害も発生していないが、ちょっとしたことで事故が発生することから、パトを常時行うことは大切」、「気をゆるめず安全管理の充実を」「年度末で仕事がふくそうし多忙な時期のパトではありますが、改善すべき事項や見習うべき点などを点検し、今後の安全管理に生かしてもらいたい」と挨拶。

このあと、一行はマイクロバスに乗り込み、堀江町の整備69工区配水管布設工事の現場を訪れた。現場では榊現場代理人から作業内容等の説明を受けた後、管路布設に伴う危険や仕切り弁取り付けの作業の安全管理、安全通路（第3者）の確保などが適切に行われているかなど、入念に点検した。

最後に会館に戻り、反省会を実施、点検事項の報告と安全管理体制の更なる徹底を申し合わせ、無災害を誓った。

管路布設に伴う危険などを診断するパト一行＝鹿児島市の現場で

全羅北道（韓国）、研修で来鹿

プラント等を視察

本県と友好関係にある全羅北道訪問団（韓国）の一行が4日から5日間の日程で、福岡県、熊本県、鹿児島県を訪れ、視察研修を実施した。本県には7日、アスコン関連事業に関する視察研修の一環として、本県におけるアスファルト事業の現況等を工事現場を含め視察を実施するため、来鹿した。一行は、リサイクル部門を視察した。一行はリサイクル部門を視察するに当たっては、アスファルト廃材を再生する方法やしくみなどに興味を示し、詳細な質問が飛び交い、対応にあたった柳詰仁同社部長や県の職員らが身振り手振りで説明していた。

今回視察に訪れたのは、全羅北道アスコン工業協同組合（理事長・LEE Dong-Jin、中小企業協同組合法に基づき設立した団体）の業者代表ら35人、同日は、米盛建設㈱アスコン部（米盛庄一郎社長、本社・鹿児島市）でプラントやリサイクル部門を視察した。

柳詰部長は「今回の交流を通して、更に友好関係を深めながら、お互い技術の向上に生かしていければ」と話した。

このあと、一行は小山田谷山線の工事現場に移動して、道路舗装工事の現況や内容等も視察した。

興味深く説明を聞く全羅北道一行＝鹿児島市の現地で

県ビルメン協会

ガラス清掃作業パト

高所作業の安全確保を

県ビルメンテナンス協会・同青年部は7日、会員企業が作業中の鹿児島市内の小・中学校6校でガラス清掃の安全パトロールを実施、現場の作業状況を点検すると共に、無災害に向けて安全管理の徹底を呼びかけた。

同協会会員事業所は現在、鹿児島市立の14年度学校窓ガラス等清掃作業を受託して行っているが、協会では労働安全対策の状況把握と安全作業の更なる確立を図るため、青年部等と合同で今回のパトを実施したもの。

会員10人が3班に分かれ、同市内の吉野東小、吉野東中、西田小、星ケ峯東小、伊敷小、緑ケ丘中の6校を診断。このうち、1班は前村次雄同協会労働安全対策委員長ら4人で編成、吉野地区を担当した。

東小では高所作業車を使って校舎4階部分の外窓を清掃中で、診断員はバケット内での安全帯着用状況や乗り出し作業上の安全対策などを点検。また、教室の中からの清掃作業においては、廊下に設置した脚立の滑り止めと、児童らへの配慮等、多角的にチェックしていた。

高所作業車での清掃作業を見守る診断員＝鹿児島市の吉野東小学校で

ファイヤーレターデント防燃水公開実験

19日に入来町で実施

マテリアル九州

㈲マテリアル九州（郡山謙二社長、本社・川内市）は19日午前8時40分から、薩摩郡入来町の川内地区消防組合東部消防署の敷地内でファイヤーレターデント防燃水の公開実験を開く（雨天時は20日に順延）。

ファイヤー・レターデント防燃水は、建物の部材に噴霧することで火災時の部材の燃焼率を大幅に低減することができるほか、引火点を著しく高めることで棟の全焼を防ぎ、全焼を回避することで避難時間を確保する事ができるなど利点を持つ。

問い合わせは、㈲マテリアル九州（☎0996・25・5466）担当・郡山氏まで。

県離島振興計画等

28日まで意見募集

県は、離島地域の今後10年（平成15年度～24年度）の振興の方向性を示す「県離島振興計画」概要（案）及び「奄美群島振興開発総合調査報告書」（原案）について、28日まで県民から意見募集（Eメール、封書、はがき、FAX）を行っている。問い合わせは、県企画部離島振興課（☎099・286・2443　FAX286・5531　メールアドレス nishin@pref.kagoshima.jp）。